株式会社　岡本商店

2024年度環境経営レポート

（2024年3月～2025年2月）

作成日：　2025年4月21日

目次

1.ご挨拶

2.環境経営方針

3.登録事業所の概要

4.実施体制

5.環境経営目標及び環境経営計画の主な内容

6.主な環境負荷の実績

7.環境経営計画の取り組み結果と評価及び来年度の取り組み

8.代表者（社長）による評価と見直しについて

9.環境関連法規等の遵守状況について

1.ご挨拶

　弊社は１９３０年の創業以来、非鉄金属材の卸売り販売をいたしてまいりましたが、近年は非鉄金属材の加工品及び合成樹脂材等の販売を加え、得意先も光学、医療、理化学、電機関係等の大手企業及び中小工場３００社以上と取引きを行って今日にいたっています。

㈱岡本商店　　代表取締役社長　　岡本幸男

2.環境経営方針

＜環境理念＞

㈱岡本商店は環境に対する取組が重要であることを認識し、地球にやさしい環境保全に努力し、非鉄金属材料の販売及び部品加工を業とする事業活動のあらゆる面で『環境の保全』を行います。

＜環境方針＞

1　二酸化炭素排出量の削減、節水による地球温暖化の抑制に努めます。

2　リサイクルを徹底し、グリーン購入を実施する事により省資源を推進し、
積極的に環境保全の向上に努めます。

3　環境管理体制を整備し、継続的な改善と法規制の遵守に努めます。

4　地域社会に環境面から貢献することにより、地域社会と共存します。

5　全従業員に方針を周知し、その実施及び達成に努めます。

6　製品含有化学物質の調査を実施し、自らが販売する商品の環境配慮に努めます。

更新日：　　2023年4月3日

㈱岡本商店　　代表取締役社長　　岡本幸男

3.登録事業所の概要

（1）事業所名及び代表者名

株式会社岡本商店
代表取締役会長　岡本和男
代表取締役社長　岡本幸男

（2）所在地

本社：〒175－0083　東京都板橋区徳丸4－29ー15　メタルビル

（3）環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者　牧野実嘉
担当者　安田翔一
TEL　03-（3984）-8411
FAX　03-（3985）-8612

（4）事業内容

非鉄金属材の販売・加工
（銅、黄銅、アルミニューム、アルミ合金、燐青銅、ステンレス、洋白、合成樹脂等）

（5）事業の規模　（事業年度3月～2月）

売上高　　675百万円（2024年度実績）
従業員　　12名
事業所面積　165㎡

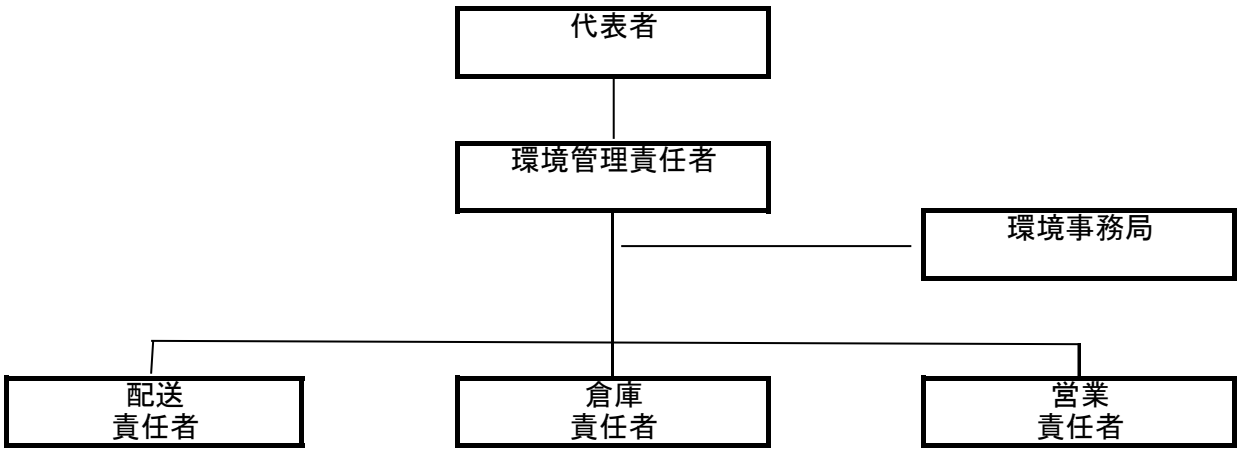
（6）対象範囲

全組織・全活動を認証・登録の対象範囲としている
本社：東京都板橋区徳丸
　　4丁目29番15号

豊島倉庫：東京都豊島区池袋本町
　　2丁目37番1号

活動：非鉄金属材の販売・加工

4.実施体制



環境経営システム　役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境経営レポートの承認。 ・代表者による経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認。 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認。 ・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告。 ・環境経営レポートの確認。
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成。 ・環境経営活動の実績集計。 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成。 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
営業	・非鉄金属材の販売、購入に伴う環境問題への対応。 ・材料証明書の管理。
倉庫	・倉庫内での環境保全活動（梱包資材、ダンボールのリサイクル化）。 ・ゴミの分別状況の確認。 ・休憩時間の倉庫内の消灯。
配送	・配送時のアイドリングストップ、エコドライブの確認。 ・燃費確認。
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加。

5.環境経営目標及び環境経営計画の主な内容

（1）環境経営目標

①　環境負荷削減目標数値（中長期目標）

本社移転後から1年を迎え、環境が変わったことをきっかけに基準年度を
2021年から2024年度に変更して中長期目標を見直しました。

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	（2024年3月～2025年2月）	（2025年3月～2026年2月）	（2026年3月～2027年2月）	（2027年3月～2028年2月）	（2028年3月～2029年2月）
二酸化炭素排出量 kg-CO2 （電力）	新基準年度	2%削減	3%削減	5%削減	7%削減
	3,418	3,350	3,315	3,247	3,179
二酸化炭素排出量 kg-CO2 （ガソリン・軽油）	新基準年度	2%削減	3%削減	5%削減	7%削減
	35,966	35,247	34,887	34,168	33,448
二酸化炭素排出量 kg-CO2 合算	新基準年度	2%削減	3%削減	5%削減	7%削減
	39,384	38,596	38,202	37,415	36,627
一般廃棄物排出量 kg	新基準年度	2%削減	3%削減	5%削減	7%削減
	275	270	267	261	256
総排水量 m^3	新基準年度	2%削減	3%削減	4%削減	4%削減
	60	59	58	58	58
グリーン購入	事務用品100%達成	維持継続	維持継続	維持継続	維持継続

購入電力の二酸化炭素排出係数(温対法　令和7年3月18日公表)

本社：0.431kg-CO２/kWh（東京電力調整後の係数）

豊島倉庫：0.335kg-CO２/kWh（東京ガス調整後の係数）

②　地域社会への環境面からの貢献

③　製品含有化学物質調査

（2）環境経営計画の主な内容

1. 電力使用量の削減

・エアコンフィルター清掃・温度設定、夏季２８度、冬季２０度
・倉庫天井灯の昼休み時間の消灯の徹底
・パソコン、コピー機へ省エネ表示をし、啓蒙活動の実施

2. ガソリン・軽油使用量の削減

・配送ルートの見直し
・アイドリングストップ、エコドライブの実施（燃費測定）

3. 廃棄物排出量の削減

・梱包資材（ダンボール、紐、縄等）のリサイクル化の徹底
・通い箱の利用
・ゴミの分別状況の確認

4. 水道使用量の削減

・洗い物のまとめ洗い

5. グリーン購入

・事務用品のグリーン購入

6. 製品含有化学物質調査

・購入する非鉄金属材のミルシート（鋼材検査証明書）の入手、保管の徹底
・顧客品質基準に対応した材料の仕入れ

7. 全従業員に方針を周知し、その実施及び達成を目指す

・ゴミ排出量の掲示による全従業員へのリサイクルの意識付け
・毎月の達成状況を掲示し全従業員へのエコへの意識付け

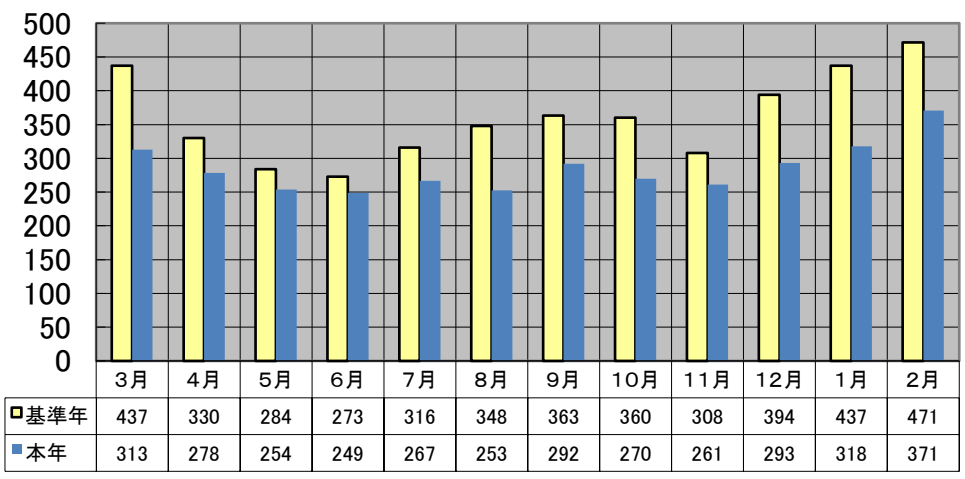
6.主な環境負荷の実績

（1）中長期目標、2024年度目標及び実績

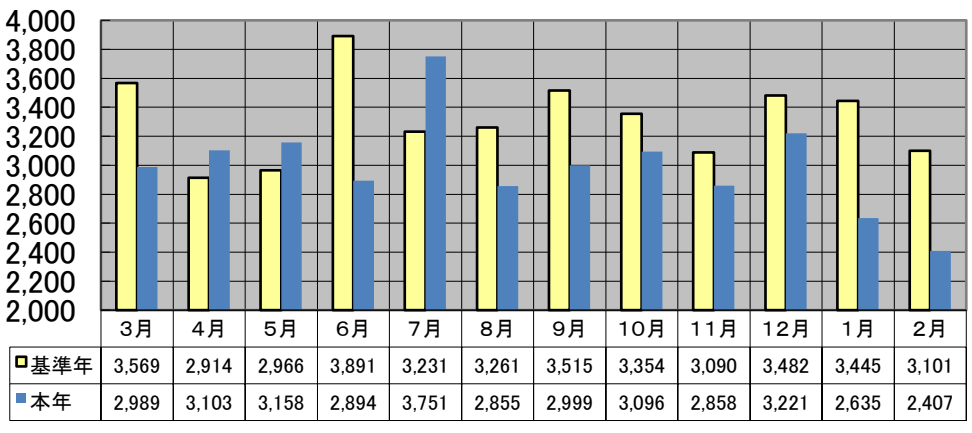
	2021年度	2024年度	2024年度	2025年度	2026年度
	（2021年3月～2022年2月）	（2024年3月～2025年2月）	（2024年3月～2025年2月）	（2025年3月～2026年2月）	（2026年3月～2027年2月）
	旧基準年度	本年度目標	本年度実績 新基準年度	2%削減	3%削減
使用電力 (kWh)	11193	10633	8035	7874	7312
ガソリン給油量 (L)	4368	4150	2385	2337	2313
軽油給油量 (L)	11330	10764	11796	11560	10441
ガソリン・軽油給油量 (L)	15698	14913	14181	13897	12754
二酸化炭素排出量（電力） (kg-CO2)	4320	4104	3418	3350	3315
二酸化炭素排出量 （ガソリン・軽油） (kg-CO2)	39818	37827	35966	35247	34887
二酸化炭素排出量合計(kg-CO2)	44139	41932	39384	38596	38202
一般廃棄物排出量(kg)	248	236	275	270	267
総排水量(㎥)	91	89	60	59	58

赤：目標値外

二酸化炭素排出量実績（電力） 単位kg-CO2



二酸化炭素排出量実績（ガソリン・軽油） 単位kg-CO2



7.環境経営計画の取り組み結果

項目	達成状況			取り組み結果と評価	来年度の取り組み内容
電力の削減	目標kWh 実績kWh 目標CO2 実績CO2	10633 8035 4104 3418	kWh kWh kg-CO2 kg-CO2	現在は問題無く取組みを実施できており、来期も同様に努めるように維持継続していく。	夏季、冬季のエアコン使用の際に、室温の変化を抑えるためにドアの開けっ放しに引き続き注意する。 また、事務所移転に伴う変動が大きいと感じるので、排出量の目標を本年度を基準に再設定したい。
ガソリン(G)/軽油(D) 使用量の削減	目標(G) 実績(G) 目標(D) 実績(D) 目標(合計) 実績(合計) 目標(計 実績(計	4150 2385 10764 11796 14913 14181 37827 35966	L L L L L L kg-CO2 kg-CO2	軽油の給油量増加には、注文の増加が関係しており、現状では致し方ない。その分、配達車の分散を防ぎ、ガソリン車の出動が減少しているため、ガソリンの給油量を抑えることに成功している。	遠方のお客様の納品日集約から、アイドリングストップ、冷暖房の調整といった細かなアプローチを今後も継続する。
CO2の合計排出量	目標 実績	41932 39384	kg-CO2 kg-CO2	電力と燃料の使用量が双方で目標に達しており、それに伴って排出量は目標達成となった。	上記の電力、燃料の削減の取組みを継続し、このまま目標水準以下を保持していく。
一般廃棄物の削減	目標 実績	236 275	kg kg	運送会社への配送委託によって発生するゴミが、注文増加に伴い共に増加した。 紙ごみ等の再利用可能なものや、印刷ミスによるロス対策等を強化していきたい。	梱包資材のリユースによりゴミの排出を抑えるように努める。
水道使用量の削減	目標 実績	89 60	m^3 m^3	水道の使用率は事務所統合により大きく減少した。 変わらずに現在の取組みを実施していく。	日々の取り組みを維持継続していく。また、一部節水弁を増設したので、使用量に変化はあるか効果を調査したい。

項目	取組結果と評価	次年度の取り組み内容
グリーン購入	前年度から引き続いて事務用品に関しては１００％購入できた。	維持継続していく。
製品含有化学物質調査	前年度から引き続いて、製造メーカーや商社からの納品時の調査表の添付、自社での保管を徹底し、また調査表の添付が出来ない商品の購入を禁止したのでユーザーからの依頼には１００％対応できた。	維持継続していく。

8.代表者（社長）による評価と見直しについて

売上・利益の確保をしつつ、新体制になって環境経営活動の取り組みを行ってきました。

配達エリアの拡大によって、新規の顧客の獲得ができたこともあり同業他社が苦戦している中、売上に関しては昨比106．7%、基準年度である2021年度との比較でも105、8%と伸びました。それに比例して軽油の使用量も増加しましたが、エコドライブ、配送の効率化によって基準年度比で104．1%の増加で抑えることができ、営業車で使用しているガソリン使用量は基準年度比で54．6%と大幅に削減できました。
遠方の顧客への営業活動と納品を同時に行うことで営業車の使用頻度を削減できたことが大きかったと思います。
電力、水道使用量は事務所と倉庫の一体化によって当然ながら削減できましたので取り組みを継続しつつ、今年度の数値に注意していきます。
一般廃棄物は入荷量の増加によって排出量も増加していますが従業員のリサイクルへの意識は徹底されているので、引き続き自社便での配達のメリットをいかした、過剰な梱包の廃止、通い箱の使用等で取り組んでいきます。

9.環境関連法規等の遵守状況について

（1）主な適用法規制
適用される環境関連法規則について年に一度遵守状況の確認を行っています。

法令等の名称	規制内容	当社の対応状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・事業者はその事業活動に伴つて生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならない。	・産業廃棄物保管場所の表示・保管、区のごみ収集の利用
東京都板橋区廃棄物の発生抑制、再利用の促進及び適正な処理に関する条例	・事業者は、資源の有効活用等により、事業系廃棄物の発生を抑制しなければならない。	・有料ごみ処理券添付
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（環境確保条例）	・ディーゼル車を所有する者は、自動車から排出される粒子状物質の量が許容限度を超える状態での走行はできない	・リース使用であるので該当しない、条例違反の恐れのある場合リース元へ連絡
	・自動車駐車、又は停車するとき、アイドリングストップを行わなければならない	・アイドリングストップの励行、エコ運転実施の表示
資源有効利用促進法	・パソコン排出者の役割	・廃棄があれば該当
家電リサイクル法	・特定家電排出者の役割	・使用済みの場合は家電販売店へ連絡(事務所内の家庭用エアコン)
自動車リサイクル法	・使用済み自動車の再資源化、フロンの回収	・リース使用であるので該当しない、使用済みの場合はリース元へ連絡
フロン排出抑制法	・業務用エアコンの定期点検整理	・業務用エアコン対象なし

エコアクション21審査での廃掃法関連の指摘については速やかに対応しました。

（2）クレーム・要望事項の
関係当局よりの違反等の指摘は、過去３年間ありませんでした。
訴訟及び苦情等も全くありませんでした。